

## 令和6年度第2回狭山市地域公共交通活性化協議会 会議録

- 開催日時 令和6年10月2日（水）午後2時00分～午後3時30分
- 開催場所 中央公民館第1ホール（狭山市市民交流センター3階）
- 出席者 吉田敦委員（会長）、久保田委員（副会長）、吉田樹委員（アドバイザー）、関根康洋委員（代理：宮迫様）、関根肇委員、藤田委員、霜村委員（代理：細沼様）、岩澤委員、中野委員、関口委員、吉田三男委員、増田委員、栗原委員、佐藤委員、烏山委員、高橋委員、苅谷委員、小寺委員、北條委員、平沼委員、梅田委員、中寫委員、大石委員、村井委員、神田委員、昔農委員、田中委員（27名）
- 欠席者 2名（坂井委員、古川委員）
- 代理出席者 2名
- 事務局 田中市民部長、増田市民部次長、日出間交通防犯課公共交通担当課長、堀越主査
- 傍聴者数 8名
- 議題等
1. 開会
  2. 会長あいさつ
  3. 議題
    - (1) 狭山市地域公共交通計画（素案）の最終確認について
    - (2) その他
  4. 閉会

## 会議の経過、質疑等の内容

### 1. 会長あいさつ

### 2. 会議の成立及び会議の公開の確認

委員総数29名のところ、委員本人の出席が25名、代理出席2名の合計27名が出席していることから、会議が成立していることを確認するとともに、会議は、地域公共交通計画の素案の確認となることから、原則どおり公開することが決定された。

以下、吉田会長が議長となり、議事を進行した。

## 協議事項（1）狭山市地域公共交通計画（素案）の最終確認について

### <概要>

狭山市地域公共交通計画の策定に向けて、前回協議会での意見及び久保田副会長と吉田樹アドバイザーの意見を踏まえて修正した狭山市地域公共交通計画（素案）を示した。今回協議会での意見を踏まえた修正を行い素案として決定することが賛成多数で承認された。

### <質疑>

委員 P39 評価指標の中で、茶の花号の収支率について、「地域交通の再編後の収支率」という注記が追加された。市内公共交通の再編を考えるにあたり、茶の花号を拡大するのか、別の形で運行するのかなど、これから議論になると思う。現状では収支率については固有名詞として茶の花号の収支率になっているが、そうした議論に応じて今後表現を見直す必要があると指摘したことから、このような修正をしたものと思う。

交通会議で協議を調べて白ナンバーで運行する自家用有償旅客運送を公共ライドシェアと呼ぶようになっているが、この9割が地方バス路線廃止の代替として自治体が運行しているものであり、皆さんのイメージするライドシェアの印象とは違うと思う。そのため、計画の中で使われていたライドシェアという表現についても自家用有償旅客運送という法令用語に統一するためコメントさせてもらった。

副会長 最後に用語集をつけており良いと思う。その中で、P43 に地域コミュニティ交通という用語があるが、これが何を表しているのか、P28 の表でいうとどこを示しているのか教えてほしい。地域コミュニティ交通という用語自体が出ていない。

事務局 P28 支線の地域交通のうち、新たな地域公共交通と地域住民を支える移動手段の中で検討していきたいと考えている。

副会長 そうであれば P28 にも地域コミュニティ交通と示した方が良い。用語集にある言葉が計画の中に記載されていないのは違和感がある。

委員 P1 について、以前指摘した労働力不足の件が記載されているが、運転手不足に特化した表現に見受けられるので、公共交通の担い手不足という見方にしても良いと思う。

P14 の観光来訪者数について、令和 4 年度は新型コロナウイルス感染症の影響も一定程度落ち着いてきた時期だと思うが、大きく回復していない要因を分析しているか。

事務局 狭山市の観光来訪者は、七夕祭りや航空ショーといったイベントによるものが多くなっているが、コロナ禍の影響でそうしたイベントが限定的な開催となったためと考えている。

委員 今後、計画の進行管理をしていくことになる。P40 の 7.3 進行管理の中で PDCA の考え方が示されており、計画の期限である R11 年度に 1 年間かけて計画の見直しを進めていく内容が示されている。他の自治体では、1 年半かけて改定を行うケースが多く、1 年間での改定はかなりタイトだと思う。改定の前年度から評価検証の準備をして、続けていくことや新しく見直すことを協議していくのが望ましいと思うので検討してほしい。

次年度事業の検討については、自治体の予算要求時期に合わせて考えていくことが必要となると思う。計画では 7~10 月となっているが、狭山市ではこの時期で問題ないか確認したい。

施策 14 ではまちづくりの推進として、この計画に関して庁内関係課が連携を図っていくことを記載している。これについては、あえて施策として示さずに、例えば P40 の 7.2 推進体制や 7.3 進行管理の中で示しても良いのではないかと感じた。

事務局 進行管理については、R10 年 10 月くらいから評価検証と計画見直しの検討を始めるよう変更したいと思う。

次年度事業の検討については、予算要求時期である 10 月に合わせてこのスケジュールにしている。

施策 14 については、健康や環境など様々な分野との連携が重要であると考えていることから施策として示したが、ご意見も踏まえて検討したい。

委員 施策 14 について、まちづくりに合わせて地域公共交通も利便性の高いものにしていくという位置付けで、まちづくりの一つを公共交通が担っているという記載とする考え方もあるのではないか。

副会長 施策 14 の取り組み内容では、本計画が各事業との整合性がとれるように調整を図るようになっており、本計画では P29 でコンパクトなお茶の葉ネットワークというコンセプトを打ち出している。各事業も例えばコンパクト化を目指すなど多少限

定した方が打ち出したコンセプトと整合が図れるのではないか。

事務局　ご意見を踏まえて検討したい。

～ 副会長挨拶により閉会　～

### **配布資料等一覧**

- 次第
- 座席表
- 狭山市地域公共交通活性化協議会委員名簿
- 資料 1 修正箇所一覧
- 資料 2 狭山市地域公共交通計画（素案）